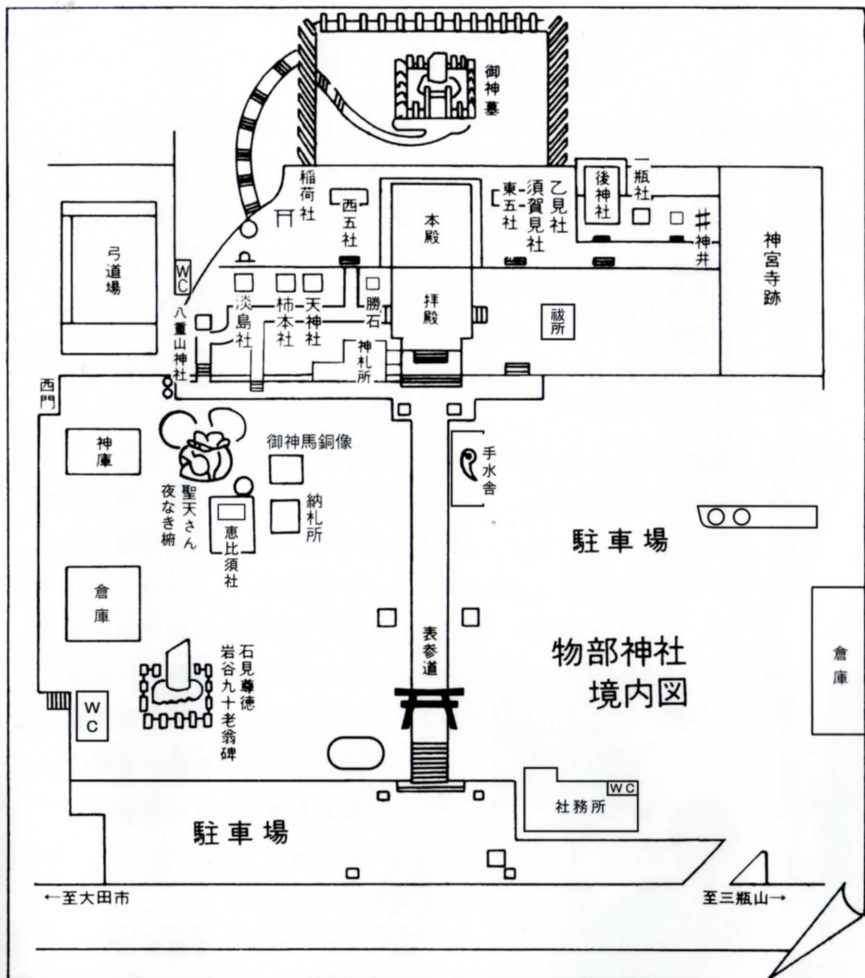




石見のくにいちのみや
石見国一宮
物部のべじんじゃ
物部神社



物部神社々務所

〒694-0011

島根県大田市川合町川合1545

電話 (0854) 82-0644

FAX 82-9298

URL: <http://www.mononobe-jinja.jp>

お問合せメールアドレス: mononobe@axel.ocn.ne.jp



社 末 撰

境内撰社

うしろ じん じゃ
後 神 社

祭 日

(12月23日)
(8月2日)

御 祭 神

し ながひめのみこと う ま し ま じのみこと きさきかみ
師長姫命, 宇摩志麻遲命の妃神

境内末社

かみ よ ななだいしゃ
神代七代社

10月11日

くにのとこたちのみこと い ざ なのみこと
国常立尊より伊邪那美尊まで七代

ひがしご しや
(東五社)

あらふつのみたましや
荒経霊社

10月11日

はしら
十一柱を祭る。

こう ぞ よんだいしや
皇祖四代社

10月11日

す さ のおのみこと
須佐之男尊

(西五社)

す が み じん じゃ
須賀見神社

11月20日

ふきあえずのみこと
天照大御神より葦不合命まで五柱

おと み じん じゃ
乙見神社

11月20日

のちに天照大御神は本殿に合祀
むつみのすくねのみこと
六見宿禰命, 宇摩志麻遲命三世孫

いっ べい しや
一瓶社

12月9日

みつみのすくねのみこと
三見宿禰命, 六見宿禰命の弟

(造酒神事)

かきのもと じん じゃ
柿本神社

8月20日

さ ひ め やまん べ だいみょうじん さん べ さん
佐比売山三瓶大明神, 三瓶山の名

すが わら じん じゃ
菅原神社

8月20日

称伝説あり。斎瓶を祀る。

いな り じん じゃ
稲荷神社

10月25日

かきのもとひとまろあそん
柿本人麿朝臣

あわ しま じん じゃ
淡島神社

10月25日

すがわらのみちざねこう
菅原道真公

や え やま じん じゃ
八重山神社

10月25日

うかのみたまのみこと おお な む ちのみこと おお
稻倉魂命・合祀 (大穴牟遲命・大

え び す じん じゃ
恵比須神社

2月初午頃

としのかみ おおとこぬしのかみ
年神・大地主神)

境外撰社

から め じん じゃ
漢女神社

8月14日

すくひこなのみこと
少彦名命

い や ひ じん じゃ
伊夜彦神社

8月14日

い ざ な ののみこと おお やまづみのかみ わか ふ つぬしのかみ
伊邪那美命, 大山祇神, 若布都主神

境外末社

ごうばらわかみやじん じゃ
郷原若宮神社

9月13日

(牛馬安全の神)
事代主命, 大国主命

なかはらわかみやじん じゃ
中原若宮神社

12月第二日曜

たくはたち ちひめのみこと いちきしまのひめのみこと つまづひめのみこと
栲幡千々姫命, 市杵島姫命, 抓津姫命

にい や わかみやじん じゃ
新屋若宮神社

4月19日

あまのかくやまのみこと もとそん じゃ
天香具山命, 元村社

かわ い じん じゃ
川合神社

9月18日

うましにぎたのみこと
味饒田命, 宇摩志麻遲命の長子

いそのかみ ふ る じん じゃ
石上布留神社

4月20日

ひこ ぬ きののみこと
彦湯支命, 味饒田命の弟・元撰社

くま の じん じゃ
熊野神社

4月5日

たけもろずみののみこと
武諸隅命

10月11日

たけこののみこと おきだ かわ い きみ
竹子命・長田川合君の祖

4月2日

とくさのかんだから
十種神室

9月19日

たかくらじのみこと すくひこなのみこと
高倉下命・少彦名命

ご さい じん 御 祭 神

う ま し まじのみこと う まし までのみこと
宇摩志麻遲命 (可美真手命)

あいどの
(相殿)

にぎはひのみこと ふつのみたまのかみ
右座 饒速日命 籬靈神

あめのみなかぬしのおおかみ あまてらすおおかみ
左座 天御中主大神 天照大神

たましずめやはらのかみ たか み むすびのかみ か ん むすびのかみ たまつめむすびのかみ
客座 鎮魂八神 (高皇産靈神・神皇産靈神・魂留産靈神・

いくむすびのかみ たるむすびのかみ おおみやめのかみ ことしろぬしのかみ
生産靈神・足産靈神・大宮売神・事代主神・
み け つ かみ
御食津神)

こと あまつ かみ あめ の み なかぬしのかみ たか み む す びのかみ か ん む す びのかみ
別 天神 (天之御中主神・高御産巢日神・神産巢日神・
う まし あ し か び ひ こじのかみ あめ の とこたちのかみ
宇麻志阿斯訶備比古遲神・天之常立神)

ご しん とく 御 神 徳

ご さい じん もののべし おやかみ
御祭神は物部氏の祖神であるところか
ぶん ぶりょうどう かみ こく ど かいたく かみ
ら、文武両道の神、また国土開拓の神と
しんこう
して、信仰された。

じん む てん の う ご そく い ふつのみたまのつるぎ とくさ
神武天皇御即位のとき、籬靈剣と十種
のかんだから ほうさい い ほくし た もの い
神宝を奉斎し、五十串を樹て物忌みさ
ほうじゅ ちようきゅう くに はんえい き ねん
れ、宝寿の長久と国の繁栄を祈念された。

やま とちようてい おすくにのまつりもうすまつきみ じゅうしよく
大和朝廷の申食国政大夫という重職に

にん ぐん じ しんさい つかさ
任ぜられ、また軍事・神裁などをも掌ど

こらい ぶん ぶ かみ かい
られたことから、古来より文武の神、開
たく かみ りょうしゅ ぶしやう ちようや あつ
拓の神として領守や武将など朝野の厚い
しんこう じょうさいしやうふく ほしまつり
信仰をあつめている。除災招福、星祭、

やくよけ か ない あんぜん こうつう あんぜん じ ぎょう あんぜんはん
厄除、家内安全、交通安全、事業安全繁
えい しょうはいはんじょう ぎょうぎやうたいりやう じゅけんごうかく びやう
栄、商売繁昌、漁業大漁、受験合格、病
きへい ゆ き がんさんばいしや おお
氣平癒などの祈願参拝者が多い。



宇摩志麻遲命御神像

(戦艦石見の守護神、のちに本社に
奉納された)

とく しゅ しん じ 特 殊 神 事

わか な み にえしん じ
若菜御贄神事 (1月7日)

おのはじめしき
斧始式 (1月7日)

ぶ しゃさい
奉射祭 (1月7日)

あ づき み にえしん じ
小豆御贄神事 (1月15日)

ひしずめのまつり
鎮火祭 (7月19日)

お た うえさい
御田植祭 (7月20日)

た のもさい
田面祭 (9月1日)

ななくさがゆ そな むびょうそくさい いの
七草粥を供えて、無病息災を祈る。

みやだい く し ごとはじ こでんしん じ
宮大工の仕事始めの古伝神事。

あく まばら おおまとしん じ こでんさい
悪魔祓いの大的神事、古伝祭。

あ づき がゆ そな むびょうそくさい いの
小豆粥を供えて、無病息災を祈る。

かみ よ いざなぎのみこと いざなみのみこと ひしずめ
神代、伊弉諾尊・伊弉冊尊の鎮火の

こ じ しん じ けいだいなりのきん し
古事による神事。境内鳴物禁止。

ご こと ほうじょう き ねん まつり みなくちさい
五穀豊穰を祈念する祭、水口祭とも

いう。代掻式と御田植式がある。

はっさくさい かき くり もも
八朔祭ともいわれ、柿・栗・桃など

きゅうしゅるい どじょう そな しゅうかく き がん
九種類と鱒を供え、収穫を祈願する。

みたましずめのまつり
鎮魂祭 (11月24日)

ふる がつちゅう とらのひさるのこく
古くは11月中の寅日申刻で

げんざいにいなめのまつりぜんや
あったが、現在新嘗祭前夜

おこ じん むてんのうご
に行なわれる。神武天皇御

そく い さいじん ほうじゅ
即位のとき、祭神が宝寿の

ちようきゅう き ねん こ じ
長久を祈念された古事によ

る神事。

いみこもしん じ
忌籠神事 (12月9日)

まっしやいっぺいしや いっぺい もち
末社一瓶社の斎瓶を用いる

ぞうしゅしん じ ふる
酒造神事のことで、古くは

がつ みそ か いみこも みそぎ
10月晦日より忌籠り禊をし

たことから忌籠神事という。

にわ び さい
庭火祭 (12月19日)

ひ かみ ほうさい かんしゃ しん
火の神への報賽、感謝の神

じ りようさい
事。燎祭ともいう。

けいだいなりのきん し
境内鳴物禁止。



鎮 魂 祭

御 由 緒

御祭神宇摩志麻遲命は、物部氏の御祖神として知られております。
御祭神の父神である饒速日命は十種神宝を奉じ、天磐舟に乗って大
和国嵯峨に天降り、御炊屋姫命を娶られ御祭神を生まれました。御
祭神は父神の遺業を継いで国土開拓に尽くされました。

神武天皇御東遷のとき、忠誠を尽くされましたので天皇より神劍
師霊剣を賜りました。また、神武天皇御即位のとき、御祭神は五十
串を樹て、師霊剣・十種神宝を奉斎して天皇のために鎮魂宝寿を祈
願されました。（鎮魂祭の起源）

その後、御祭神は天香具山命と共に物部の兵を卒いて尾張・美濃・
越国を平定され、天香具山命は新潟県の弥彦神社に鎮座されまし
た。御祭神はさらに播磨・丹波を経て石見国に入り、都留夫・忍原・
於爾・曾保里の兇賊を平定し、厳瓮を据え、天神を奉斎され（一瓶
社の起源）、安の国（安濃郡名の起源）とされました。

次いで、御祭神は鶴に乗り鶴降山に降りられ国見をして、八百山
が大和の天香具山ににていることから、この八百山の麓に宮居を築
かれました。（折居田の起源）

社 殿 創 建 ・ 社 宝

最初は神体山である八百山を崇めていた。
後に、天皇の勅命により継体天皇八年（513）社殿を創建。
その後、石見銀山争奪の兵火などで三度消失。
宝暦三年（1753）再建。文政元年（1818）の修理を経て、安政三
年（1856）宝暦時の規模で改修され現在に至る。（現在、県指定文
化財）春日造では全国一の規模である。

宝物では、後小松天皇を始め歴代天皇の御宸翰・御物、重要文化
財の太刀『了戒』、県指定太刀『雲生』、英一蝶筆『百鬼夜行之図』
狩野安信筆『鴨越之図』など刀剣、武具、工芸品、書画、古文書な
ど450余点を蔵している。